

研究開発評価委員会活動報告

一科目「起業基礎」の評価

研究開発評価委員会

石井克佳・川上有正・金城幸廣・後藤卷子・杉村祐美子
八手又仁彦・平田佳弘・福原行也・山中紀子

【要旨】

平成15年度から17年度の3年間にわたり、本校は文部科学省研究開発学校に指定され、「大学との連携による高等学校における起業・ベンチャー教育プログラムの開発」に取り組んだ。これに伴い、平成15年度から「研究開発評価委員会」を校内組織として発足させ、研究開発に関する評価活動を実施してきた。完成年度である平成17年度は、2年次学校指定必履修科目「起業基礎」の科目開発に関する評価活動を行い、起業・ベンチャー教育の有用性を調べた。

1. 17年度「評価委員会」の活動計画

動方針を立案した。

(1). 昨年度からの確認事項

平成16年度は研究開発科目「起業基礎」の授業を本格的に実施した。評価委員会では科目「起業基礎」の学習活動の展開にあわせて評価活動を行ってきた。昨年度を簡単に振り返ると、以下の3点を挙げることができる。

- ①「起業基礎」の授業を通じて、生徒の起業意識や勤労観の育成が、徐々に高まった。
- ②生徒の自己評価では、学習効果の高まりが確認された。
- ③保護者からの理解と期待も高い。

また、昨年度の反省点は以下のとおりである。

- ①単なる科目開発ではない。次の学習指導要領の検討資料である。
- ②新しい教育課程とされるものが授業内容にきちんと反映されているかチェックする

個人レベルではなく、学校全体に反映されること。意識の普遍化。教科の研究ではなく、教育課程の研究なのである。すべての教科の枠組みの中で、見つめ直す。

- ③研究システムに評価システムを入れる。ねらいと評価の一体化。

- ④評価計画の作成。主張をバックアップする、データを集める。

- ・生徒の変容の印象を記述したものでもよいだろう。
- ・統計データ
- ・生徒、教師、学校運営、保護者などが評価対象となる。
- ・こうしたい、こうしたいというねらいに対して、どうだったのか、そのデータを集めるわけである。

これら昨年度1年間の評価活動を振り返り、今年度の活

(2). 今年度の目標

- ①諸活動・授業を通じた生徒の変容の確認

年間の学習項目ごとに、生徒の学習活動に対する意識がどのように変化したかをとらえていく。今年度は、大単元ごとにアンケート調査、インタビューなどの方法で事前・事後の変容をとらえていくこととした。

- ②研究方法の改善に関するアドバイス

科目開発を担当している「起業基礎部会」に対して調査結果を速報し、授業内容の改善に役立つ資料を提供する。

- ③保護者の理解や意識の調査

昨年度に引き続き保護者アンケートを実施する。年度始めの事前アンケートでは科目「起業基礎」に対する保護者の期待や理解を調べる。年度末の事後アンケートでは、保護者の目から見た生徒の変容を調べる。

(3). 今年度の位置づけ

研究開発の完成年度として、「起業基礎」の科目開発を完成させる。評価活動はこの目標に沿って、科目「起業基礎」の学習活動が生徒にどのような変容を及ぼすかということに重点を置いた。

今年度の学習目標は、以下の7つの力の育成に絞った。

- ①社会のニーズを見つける力(問題発見の力、気づき)
- ②もの、サービスを考案する力(問題解決の力、アイディア力)
- ③アイデアを具現化する力(企画立案する力)
- ④試行錯誤、失敗にくじけない力(チャレンジ精神)
- ⑤力をあわせて行動する力(チームワーク力)
- ⑥市場展開のための知識とそれを使用する力(マー

ケティング)

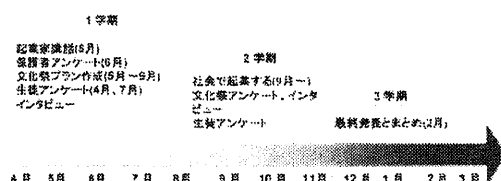
⑦自分の考えを相手にわかりやすくまとめて伝える力（プレゼンテーション力）

評価活動も、これら7つの力がどこでどのように育成されていくのかを追っていくこととした。

(4). 評価活動のスケジュール (図1)

図1 評価活動のスケジュール

・実施計画に合わせて評価活動を実施していく



④4/13 第1回授業、開始時生徒アンケート調査

⑤5/10 起業家講話(吉田雅紀氏)…ビデオ録画

⑥6/11 2年次生保護者対象アンケート調査

④6/21 黎明祭プランプレゼンテーション…ビデオ録画

⑤7/15 1学期末生徒アンケート調査

⑥夏季休業中 生徒各クラス3名程度…インタビュー
就業体験(希望者)…インタビュー

⑦9/6～24 黎明祭企画準備・実施…ビデオ録画、事前
事後の生徒の変容を見る。

来場者による人気投票…起業基礎部会

⑧10/4 「社会で起業する」ガイダンス、2学期末生徒
アンケート調査

⑨冬季休業中 生徒各クラス3名程度インタビュー

⑩3学期末 3学期末生徒アンケート調査、生徒各クラ
ス3名程度インタビュー

⑪最終発表とまとめ…ビデオ録画、生徒の感想聞き取り、
アンケート調査

⑫最終発表時の保護者意識調査…アンケート調査

2. アンケートによる評価活動

(1). 保護者アンケート

日時 2005年6月

回収 2年次保護者を主に87名。

調査目的 生徒の家庭での様子を調べる。

7つの力に対する保護者の理解を調べる。

授業への期待、質問・意見・要望を調べる。

①調査項目1. 7つの力に関して生徒の家庭での様子

次の各項目について、保護者からご覧になって、生徒は日頃の程度能力を発揮していると思いますか。「全く発揮していない」を1、「あまり発揮していない」を2、「少し発揮している」を3、「大いに発揮している」を4として、もっとも当てはまるものをひとつ選んで、1～4の数字の上に○をつけてください。

①社会のニーズを見つける力(問題発見の力、気づき)

②もの、サービスを考案する力(問題解決の力、アイディア力)

③アイディアを具現化する力(企画立案する力)

④試行錯誤、失敗にくじけない力(チャレンジ精神)

⑤力をあわせて行動する力(チームワーク力)

⑥市場展開のための知識とそれを使用する力(マーケティング力)

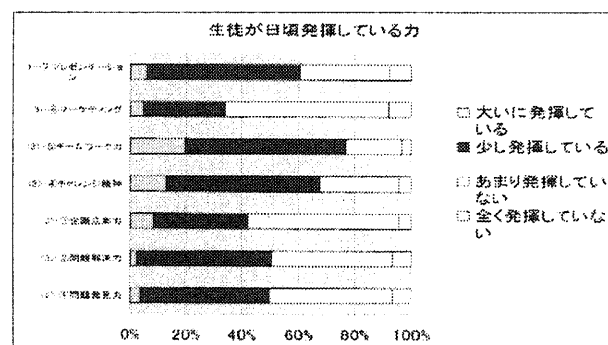
⑦自分の考えを相手にわかりやすくまとめて伝える力(プレゼンテーション力)

※上記①～⑦のうちで、「少し発揮している」と「大いに発揮している」に○をつけた方に質問です。生徒はこれらの能力を家庭でどのように発揮していますか。

できるだけ具体的に書いてください。

調査結果(図2)

図2 保護者アンケート①



保護者から見た生徒の得意分野は、「チームワーク力」(大いに発揮していると少し発揮しているを合計して76.8%)と「チャレンジ精神」(同67.5%)であった。不得意分野としては、「マーケティング」の能力を発揮していない(全く発揮していないとあまり発揮していないを合計して65.8%)と答えていた。

②調査項目2. 生徒が将来社会生活を送る上で、7つの力の必要度。

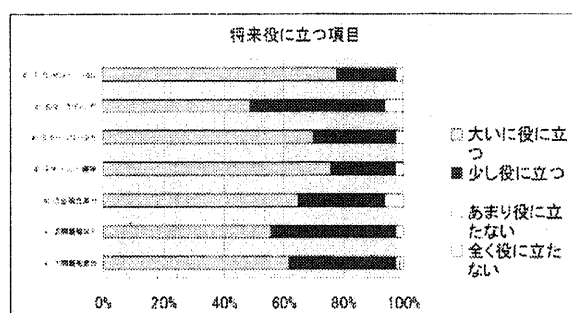
将来生徒が社会生活を送る上で、あなたは次の各項目がどの程度役に立つと思いますか。「全く役に立たない」を1、「あまり役に立たない」を2、「まあ役に立つ」

を3、「大いに役に立つ」を4として、もっとも当てはまるものをひとつ選んで、1～4の数字の上に○をつけてください。

- ①社会のニーズを見つける力(問題発見の力、気づき)
- ②もの、サービスを考案する力(問題解決の力、アイデア力)
- ③アイデアを具現化する力(企画立案する力)
- ④試行錯誤、失敗にくじけない力(チャレンジ精神)
- ⑤力をあわせて行動する力(チームワーク力)
- ⑥市場展開のための知識とそれを使用する力(マーケティング)
- ⑦自分の考えを相手にわかりやすくまとめて伝える力(プレゼンテーション力)

調査結果(図3)

図3 保護者アンケート②



どの項目とも、9割以上という極めて高い割合で「大いに役に立つ」と「まあ役に立つ」を挙げていた。とりわけ、チャレンジ精神、チームワーク力、プレゼンテーション能力は「大いに役に立つ」が7割を超える高い支持を得ていた。

③調査項目3. 科目「起業基礎」の中で7つの力の育成を図ることへの期待・関心。

「起業基礎」の授業を始めとする教育活動の中で行われている、つぎの各項目の育成に、あなたはどの程度期待していますか。

「全く期待していない」を1、「あまり期待していない」を2、「少し期待している」を3、「大いに期待している」を4として、もっとも当てはまるものをひとつ選んで、1～4の数字の上に○をつけてください。

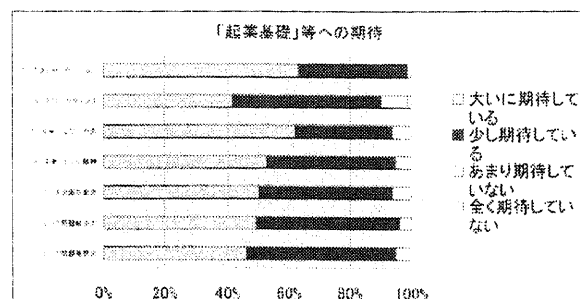
- ①社会のニーズを見つける力(問題発見の力、気づき)
- ②もの、サービスを考案する力(問題解決の力、アイデア力)
- ③アイデアを具現化する力(企画立案する力)
- ④試行錯誤、失敗にくじけない力(チャレンジ精神)

⑤力をあわせて行動する力(チームワーク力)

⑥市場展開のための知識とそれを使用する力(マーケティング)

調査結果(図4)

図4 保護者アンケート③



こちらも、②と同様に各項目とも「大いに期待している」と「少し期待している」が約9割を占めていた。今年度の「起業基礎」が目標とする7つの力の育成に関して、保護者からこのような評価を得られたことは幸先のよいスタートとなった。

④調査項目4. 自由記述により、保護者からの質問・意見・要望を調べた。

起業基礎の内容について、ご意見やご質問がありましたらご記入ください。

自由記述の数は少なかったが、「授業の中で能力を高めていく工夫が必要。」という指摘が見られた。

このように、今年度も「起業基礎」を始めとする研究開発に対して、保護者の理解が得られており、期待も高い。生徒の持つ「チームワーク力」「チャレンジ精神」を生かしつつ、「プレゼンテーション」や「マーケティング」の力を高めていく方向を確認した。

(2). 生徒アンケート1回目(4月)、2回目(7月)

生徒を対象にしたアンケートをすでに4/13、7/15、10/4の3回実施した。

①平成17年度4月授業開始時にアンケートを実施した。

対象 2年次生160名

回収 158名 (98.75%)

目的 授業開始時の状況を把握する。

変容の基礎データとする。

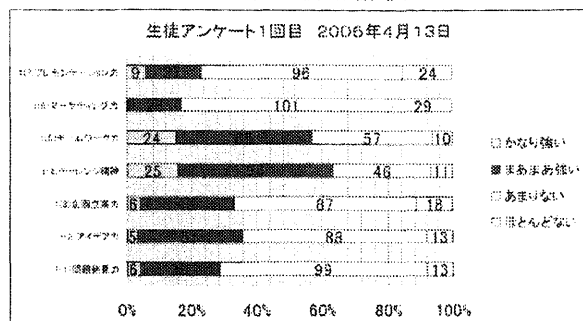
7つの評価項目を設定した。

- ・問題発見力
- ・アイデア力
- ・企画立案力
- ・チャレンジ精神

- ・チームワーク力
- ・マーケティング力
- ・プレゼンテーション力

調査結果(図5)

図5 生徒アンケート1回目
7つの力 自己評価

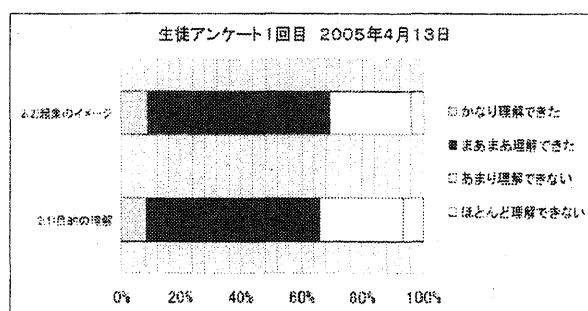


生徒の自己評価によると、授業開始時では、チームワーク力とチャレンジ精神は比較的得意ではあるが、プレゼンテーション力とマーケティング力は不得意であることがわかった。この結果は、保護者アンケート結果とほぼ一致していた。これから1年間「起業基礎」の授業でこれら7つの力を高めていく工夫が必要であることを確認した。生徒が不得意と感じている、プレゼンテーション力とマーケティング力については、特に授業内での工夫が必要である。このことを「起業基礎部会」にフィードバックした。

また、1回目の授業内容についても授業後にアンケート調査を行った。

(図6)

図6 生徒アンケート1回目
授業内容調査



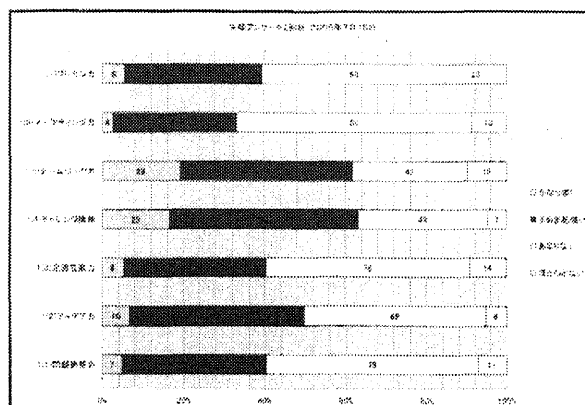
昨年度も同じ時期に同じ主題で授業を実施したが、生徒にとっては難しい内容が多かった。今年度の授業実施に際して、そのことを講師に伝えるとともに、基礎的な内容を中心にこの1年間の授業に対する導入の意味を強調した授業を実施していただいた。その結果、図6のような結果を得た。約7割が理解できたと答えている。昨年度の反省を生かした形で今年度の授業を開始することができた。

②1学期終了時7月に生徒に対して2回目のアンケートを実施した。

生徒は、定期的実施されるヒアリングや毎回提出するワークシートで、「7つの力」がどのように身に付いていくかを意識している。今回、授業を通して「7つの力」がどのくらい身に付いたかを聞いた。また、前回同様毎回の授業に関する評価を聞いた。

調査結果(図7)

図7 生徒アンケート2回目
7つの力 自己評価

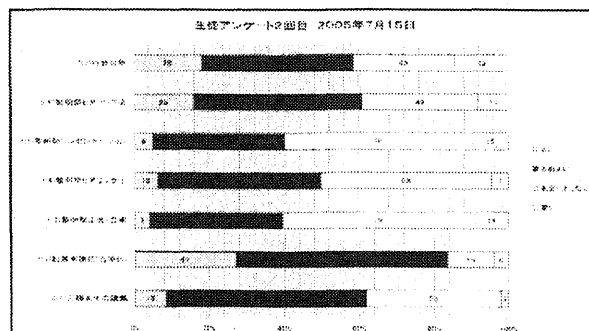


1学期始め(4月)と終わり(7月)の比較では…「7つの力」はいずれも、現状維持または増進が認められた。伸びが認められた力(4月→7月) アイデア力 35%→50% チームワーク力 57%→61%。安定している力 チャレンジ精神 63%→63%。今後の課題としては、問題発見力 29%→41% マーケティング力 18%→33% プレゼンテーション力 23%→39%をさらに伸ばすことであった。

このように7つの力の育成は、授業を通してある程度の高まりが見られたが、全体的には、まだ低調である。今後さらに伸ばしていく工夫が必要である。起業基礎部会に調査結果を伝え、授業内容の検討を提案した。

この間の授業内容に関しては図8のようになった。

図8 生徒アンケート2回目
授業内容調査



外部講師の授業については打ち合わせを綿密に行ったため、生徒の授業態度やレポートから見られる理解度も良好であった。アンケートにもその効果が現れ、大学教員による講義で6割以上、起業家の講話で8割以上が肯定的な評価をしていた。

また、今年度はビデオ録画を継続して実施し、この記録を有効に利用する方法を検討課題とした。

(3). 7月時点での評価委員会からの指摘事項

①黎明祭企画

- ・生徒の中で、起業の話と文化祭の企画がどこでどのように繋がっているのかわからない。
- ・食品企画が一つだけだったが、食品は売れるに決まっているし、まして校舎の中央で人通りも多い。この条件で4クラスの比較は不公平だ。
- ・文化祭の企画の時、教員は教室にいて生徒を見ていた方がよい。

②授業内容

- ・「好きメシ」は生徒にとってわかりやすく印象が強い。
- ・生徒から見ると、もっと授業に工夫がほしい。
- ・教員の指導力がまだ無い。有機的に繋がっていない。

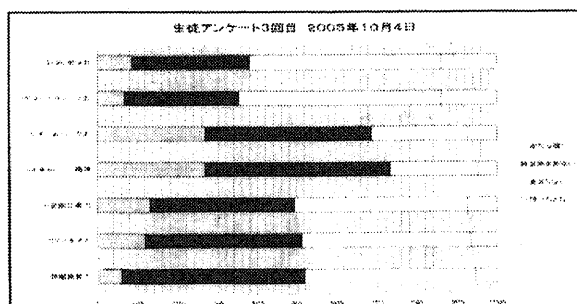
③7つの力

- ・「マーケティング力」が身に付いていない。マーケティングまでいく状況ではない。
- ・「マーケティング」について質問しても、生徒は意味がよくわかっていない。
- ・40人もいて人件費がかかっていないのに大して儲けもない。起業なのか?
- ・「ヒアリングをうまく逃れている生徒がいる」との指摘あり。

(4). 生徒アンケート3回目(10月)

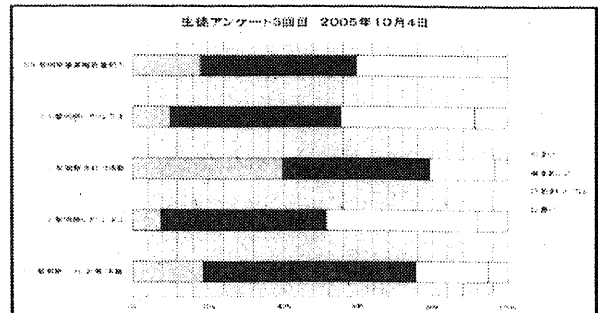
調査結果(図9)

図9 生徒アンケート3回目
7つの力 自己評価



文化祭終了時10月に3回目の調査を実施した。方法・内容は前回同様、生徒が7つの力がどの程度身につけたのか自己評価を聞いた。合わせてこの間の授業に関する評価を聞いた。(図10)

図10 生徒アンケート3回目
文化祭終了時授業内容調査



グラフを見てわかるとおり、7つの力のうち5つまでは肯定的な自己評価が5割を超えた。マーケティング力とプレゼン力では肯定的評価が4割弱である。4月、7月の調査と比較すると、どのような違いがあるだろうか調べてみた。

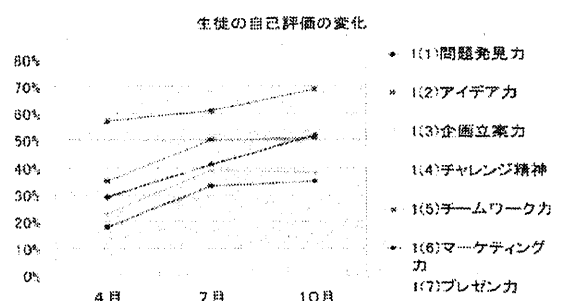
その結果、4月と10月の比較では「7つの力」はいずれも、増進していることが認められた。

(5). アンケート調査まとめ(表1、図11)

表1 生徒アンケートの比較
4月→7月→10月

肯定的自己評価の変化	4月	7月	10月	4月→10月
(1) 問題発見力	29%	41%	52%	+23
(2) アイデア力	35%	50%	51%	+16
(3) 企画立案力	33%	40%	49%	+16
(4) チャレンジ精神	63%	63%	73%	+10
(5) チームワーク力	57%	61%	69%	+12
(6) マーケティング力	18%	33%	35%	+17
(7) プレゼン力	23%	39%	38%	+15

図11 生徒アンケートの比較
4月→7月→10月



4月と10月の比較では…「7つの力」はいずれも、増進が認められた。

①大きな伸びが認められた力としては、問題発見力 29%→52%、アイデア力 35%→51%、企画立案力 33%→49%が挙げられる。特に問題発見力は23ポイントの伸びが認められた。

②安定している力としては、チャレンジ精神 63%→73%とチームワーク力 57%→69%が挙げられる。どちらの力も、7割の生徒が肯定的な自己評価をしている。

③低いながらも伸びが認められた力としては、マーケティング力 18%→35%とプレゼンテーション力 23%→38%が挙げられる。マーケティング力は肯定的な自己評価をしている生徒が倍増したことがわかる。プレゼンテーション力もまだ4割弱と低い状態だが、今後の授業で高める工夫を行うように「起業基礎部会」に提言した。

文化祭の取組みを通して、生徒も徐々に力をつけて行った。

特に文化祭に起業活動を取り入れるという内容に関しては、8割の生徒が肯定的意見であった。一方、ヒアリングや事業報告書記入については、肯定的意見が5割から6割の生徒にとどまった。

3. 生徒インタビュー

(1). 目的

成績段階ごとに抽出した生徒各クラス3名ずつを対象に聞き取り調査を実施する。個別に授業の印象や感想を聞き出すとともに、年間を通した生徒の変容を調べる。

(インタビュー内容)

「起業基礎」インタビュー(2学期)

年 月 日 2年 組 番 氏名

◎起業基礎の2学期の授業内容を振り返って、次の質問に答えてください。

- 印象に残った授業と、どんな点が印象に残ったか話してください。
- 2学期の授業を受ける際に、あなたが意識して行ったことはありますか。(例：講師の話聞く際にメモを取った。クラス討議では積極的に意見を出した。)

3. 起業基礎の授業内容は、将来あなたが社会に出たときに役立つ内容だと思いますか。

4. 7つの力はどの程度身に付きましたか。4段階で教えてください。また、どんな授業の時に身に付いたか、振り返って話してください。

【4身に付いた 3少し身に付いた 2あまり身に付かない 1全く身に付かない】

- ①社会のニーズを見つける力(問題発見の力、気づき)
 - ②もの、サービスを考案する力(問題解決の力、アイデア力)
 - ③アイデアを具現化する力(企画立案する力)
 - ④試行錯誤、失敗にくじけない力(チャレンジ精神)
 - ⑤力をあわせて行動する力(チームワーク力)
 - ⑥市場展開のための知識とそれを使用する力(マーケティング)
 - ⑦自分の考えを相手にわかりやすくまとめて伝える力(プレゼンテーション力)
5. その他フリートークで、2学期の「起業基礎」について感想を話してください。
6. 最後にインタビューを実施した先生自身が生徒の印象を書いてください。

(2). 結果

①印象に残った授業

		1 学 期	2 学 期
印象に残った授業	上位者	好き飯 2 企画発表会 1 企画作成 1	プレ起業 2 事業報告会 2 ボクスターセッション 1
	中位者	企画発表会 1 ヒアリング 1 トルコ風アイス 1	プレ起業 3 社会で起業 1
	下位者	企画作成 1 企画発表会 1	プレ起業 2

②受講のとき意識して行ったこと

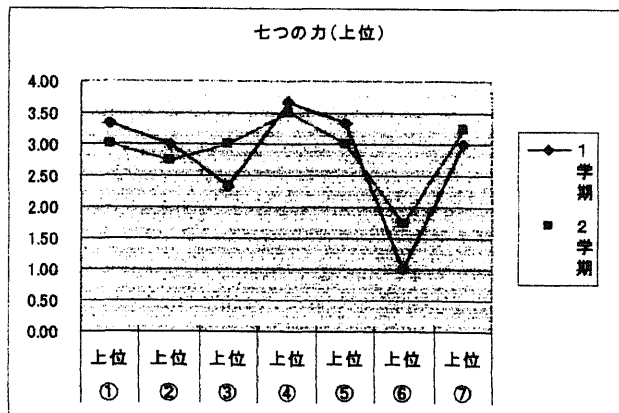
		1 学 期	2 学 期
自分が意識して行ったこと	上位者	積極的にアイデアを出した 2 話を聞いた 1	情報収集した 1 話し合いに参加した 1 役割分担した 1 メモを取った 1
	中位者	提案をした 1 意見を出した 1 メモを取った 1	7行'17を出した 1 積極的に参加した 1
	下位者	意見を出した 2 メモを取った 1	特にしなかった 1 色々考えた 1

③起業基礎の授業は将来役に立つ内容か

	1 学 期	2 学 期
上 位 者	A：人によって異なると思う。自分にとっては役に立った。 B：利益や顧客のニーズという点で役に立っている C：役に立つと思う。	A：役に立つとは思いますが、起業の大変さを知ったので、自分では起業しないかも。 B：アイデア力やチャレンジ精神・チームワーク力は社会に出てからも役に立つと思う C：きっちりした目標がある訳じゃないので、何となくあやふやな感じがする。
中 位 者	A：役に立つと思った。 B：将来農家になるので、その時役に立つと思う。 C：親の仕事を継ぐつもりなので、その時役に立つと思う	A：プレゼンなどは、働いてからも役に立つと思う。 B：アイデアを具現化する力などは役に立つと思う。 C：自分にとってはそれなりに。社会を創っていきたいと思っている人にはとても役に立つと思う。
下 位 者	A：プレゼンなどは、社会に出てから役に立つと思う。 B：あまり役に立たない。 C：利益などについて考えることが出来たので、役に立つと思う。	A：認可取得や融資の方法など、役に立つと思う。 B： C：起業する人には役に立つ。

(3).アントレプレナーシップ育成の「7つの力」の習熟度について

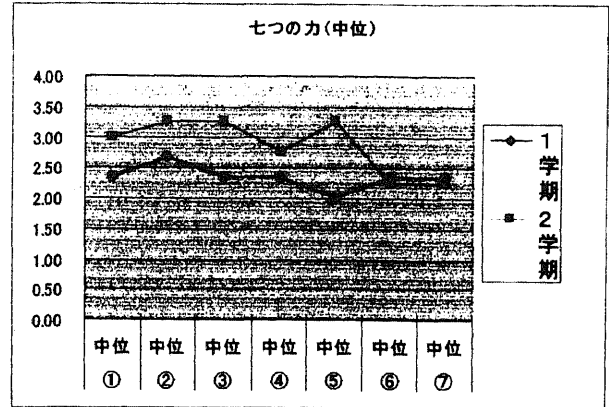
①七つの力の習熟変化〔上位者〕



・力の1学期から2学期への変化がない。

・上位者は理解力があるが、マーケティングの意味については理解できない。

②七つの力の習熟変化〔中位者〕

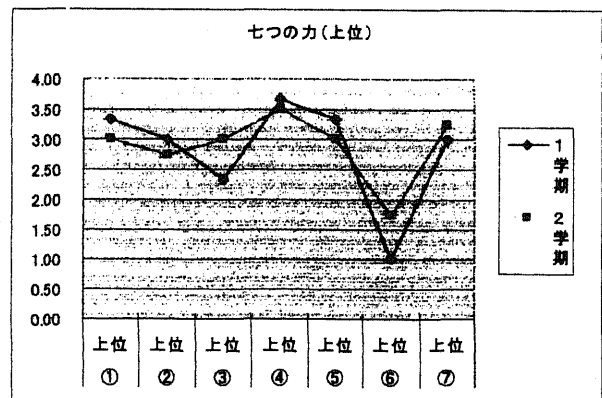


・全ての力は平均化していて、1学期より2学期に伸びている。

・中位者の生徒の理解力が上昇している。

・(5)のチームワーク力の上昇が顕著に見られる。

③七つの力の習熟変化〔下位者〕



・全ての力が2学期には下がっている。

・(5)のチームワーク力が2学期の方が減少しているのが特徴。

・1学期のチームワーク力が高いのは、文化祭への取り組みを指している。

④～⑥について

・全ての生徒に見られるのは、(6)のマーケティング力は1学期には弱かった。2学期に期待したが2学期も伸びない力であった。文化祭後に後半に結びつけるマーケティング力の意味を教え、その力を育成していく授業が必要と思われる。

・上位者は1学期から2学期の変容は小さいが、中位者

と下位者においては1学期と2学期の変容が若干見られる。

・フリートーキングからは1学期より2学期の方に価値を持つ傾向があるが、下位者については7つの力の習熟変化がグラフのように逆の結果が表れた。これは「関心・態度」から「思考すること」を求め始めたと解釈したい。

・個人グラフもとってみたが、かなり個人差があり、サンプル数としては不足であった。そこで、1クラスだけ、5のインタビューの要旨を参考資料として掲載する。

(4). フリートーキングの要約と印象

フリートーキングの要約と印象……生徒のフリートーキングを聞き、インタビュアーから見た生徒と起業基礎に対する取り組みへの印象を記した。

生徒の変容……1学期から2学期の変容を記した。

○ 組	1 学 期	2 学 期
上 位 者	<p>授業の展開についていこう、メンバーを動かそうという努力を行うため、本人は非常に忙しいという実感を持った。</p> <p>理解力があり、すぐ実行に移せる。文化祭企画運営について具体的な取り組みを行うことができる。クラス全体を動かそうという広い視野で物事の展開を判断する。</p> <p>起業については社会的経験不足で理解は不十分である。</p>	<p>授業で行うべき内容を期日内にクリアしていこうという意欲があり、2学期も大変忙しさを感じている。まとめ役として周囲からの要望に対して当然応えようという自覚がある。</p> <p>全力投球して企画準備した内容が却下されて戸惑ったがチャレンジ精神を持続させ頑張った。しかし文化祭は不完全燃焼の感を強く持つ。</p> <p>グループでの起業案について、発表後講師からの指摘により、社会的企業として成立させる工夫・構想の方法を見いだすことができた。</p>
生徒 の 変 容	<p>生徒にとって目のねらいは、前半は文化祭企画の成功そのものだけであった。</p> <p>もともとクラス単位で進めようという視野の広さを持っていて、周囲からの期待にも応え努力している生徒であるが、しかし社会的な視野に立っての起業という観点では、授業内容から具現化は難しい。小グループに向けた直接的アドバイスを受け、初めて企業というものの成り立ちや構想のアイデアがつかめてきたようだ。</p> <p>常に人の動きを考えているためか、プレ起業としての授業の楽しさを感じることはあまりなく、責任感や多忙感が強い。</p>	

○ 組	1 学 期	2 学 期
中 位 者	<p>大教室での講演という一方通行的な展開に相性が合わず不満だけが残りました。</p> <p>関心を持つ箇所は見られなかった。</p> <p>価値判断の尺度は自分自身であるが、またそう言えるだけの発言力や行動力もある生徒であり、本人の性格的な要素が大きく影響した。</p> <p>積極性や器用さを持っているが、受容するパターンの授業展開ではそれが生かされず、先入観として不満を持ってしまう特徴が見られた。</p>	<p>自分たちで具体的に行動できる自由さを与えられ、大変行動的になった。</p> <p>積極性のある性格と授業展開とが合致し、起業構想を具体化していくことの行動的部分に対し楽しさを強く持つようになった。</p>
生徒 の 変 容	<p>思考の特徴として公平性と個性的な部分両面を持ち合わせている。そのためか授業の展開によっては受け身で不満を持ったり、また生き生きと行動的になってアイデアを具体化していく作業を楽しんだり、部分部分で感じ方を異にする。そういった意味で1学期と2学期とでは授業への取り組み方が大きく変容したかのように感じられる。</p>	

○ 組	1 学 期	2 学 期
下 位 者	<p>講話内容を実際に置き換えて具現化することやそれを表現するということが得意ではない。</p> <p>聴講タイプの授業の印象はおもしろくないという。授業態度は受け身で、起業について無関心であった。文化祭の企画を行ったこととプレゼンについてP・Pに関わったことが唯一であった。</p> <p>インタビューに表面的に無難な返答をしようという気持ちがみられる。</p>	<p>起業の授業が進むにつれ、認可のための具体的呈示等から起業の実際はこういうことかという実感がわき分かりやすくなったという。徐々に商品のアイデアを日常的に考える場面が増えていった。性格的な積極性が強まったわけではないが、起業のアイデアを意識する変化が見られる。2学期後半は楽しいという実感がある。</p>
生徒 の 変 容	<p>1学期の授業展開では本人は受け身で、内容に関心を示したりという特筆すべき変化は見られなかった。文化祭企画への参加についても起業という観点で見ることができていなかった。</p> <p>2学期の起業活動を通して意識に大きく変容が見られた。</p>	

4. 就業体験（起業基礎）

夏期休業中の4日間の就業体験は起業基礎の一環として行われ、増単位認定も行われる。本年度は20名の生徒が参加し、生徒はそれぞれの就業体験を振り返る感想文を提出した（なお、複数の企業で体験を行った生徒がいるため、感想文の合計は23となった）。本項では感想文の内容を分析し、就業体験の効用を考える。

23の感想文の記載内容は、大きく分けて4種類の分類が可能であった。以下に示す表（表2）は、各感想文の記載内容を一覧にしたものである。大半の生徒が新しい知識や技術を得たと記載し、約半数の生徒が働くことの喜びや厳しさを感じ、自分の将来について考えたと記載している。この分析結果から、就業体験は参加者のキャリア形成に有用であったことが示唆される。このように就業体験が起業基礎の一環として行われ、参加者には単位認定が行われた。就業体験も「7つの力」の習得を目指して行われるべきであり、そのための取り組みが必要であろう。

表2

感想文	体験内容	働くことの喜びを感じた	働くことの厳しさを感じた	自分の将来について改めて考えた	新しい知識や技術を得た
A	介護施設	○	○		○
B	老人施設	○			
C	牧場		○	○	○
D	図書館	○	○	○	
E	牧場	○	○		○
F	図書館		○		○
G	老人施設		○	○	○
H	在庫管理				○
I	幼稚園	○	○	○	
J	園芸	○			○
K	老人施設	○			○
L	図書館	○			○
M	園芸		○	○	○
N	幼稚園	○		○	
O	在庫管理				○
P	幼稚園	○	○		○
Q	接客		○	○	○
R	図書館	○	○		○
S	図書館		○	○	○
T	図書館			○	○
U	図書館	○	○	○	○
V	在庫管理				○
W	接客			○	
	○の総数	12	13	11	18

5. まとめ

このように3年間にわたり、起業基礎部会が中心となり研究開発の完成年度として科目「起業基礎」の開発と完成に取り組んだ。評価委員会では科目「起業基礎」の評価活動を実施してきた。3年間の活動をまとめるにあたり、今年度当初に掲げた目標がどのように達成されたかを振り返る。

(1). 諸活動・授業を通した生徒の変容の確認

年間の学習項目ごとに、生徒の学習活動に対する意識がどのように変化したかをとらえていくことを中心に評価活動を進めた。今年度は、「7つの力」の育成を指標にして、2年次生全員を対象に3ヶ月に1度アンケート調査を実施した。また、それを補完する意味でインタビューを実施した。その結果生徒の事前・事後の変容をとらえることができた。

(2). 研究方法の改善に関するアドバイス

(1)の結果を適時「起業基礎部会」に対してフィードバックし、授業内容の改善に役立つ資料の提供を心がけた。その結果、研究システムに評価システムを取り入れ、ねらいと評価の一体化を図ることができた。

(3). 保護者の理解や意識の調査

昨年度に引き続き保護者アンケートを実施した。年度始めの事前アンケートでは科目「起業基礎」に対する保護者の期待や理解が得られていることがわかった。今後、年度末に事後アンケートを実施し、保護者の目から見た生徒の変容を調べていく。

(4). 科目「起業基礎」の今年度の学習目標と「7つの力」の育成

「起業基礎部会」が掲げた「7つの力」とは以下のとおりである。

- ①社会のニーズを見つける力（問題発見の力、気づき）
- ②もの、サービスを考案する力（問題解決の力、アイデア力）
- ③アイデアを具現化する力（企画立案する力）
- ④試行錯誤、失敗にくじけない力（チャレンジ精神）
- ⑤力をあわせて行動する力（チームワーク力）
- ⑥市場展開のための知識とそれを使用する力（マーケティング力）
- ⑦自分の考えを相手にわかりやすくまとめて伝える力（プレゼンテーション力）

2年次生全員を対象に3ヶ月に1度アンケート調査を実施し、「7つの力」の変容を見てきたところ、科目「起業基礎」における学習活動を通して、いずれも生徒自身が力の育成を実感していることがわかった。